



# 今田好彦氏 永眠す



IMADA

## 今田新聞

NEWSLINE

今田好彦さん死去 **1**  
酒と女性をとことん愛した東洋大学社会学部教授の今田好彦さんが6月25日に心筋梗塞のため死去した。

四十九日座談会 **2**

髭の肖像 **4**

今田好彦追悼文 **6**

お天気

天界	☀️
埼玉県	☁️/☀️
修羅界	👹
畜生界	🐼
餓鬼界	👹
地獄界	👹👹👹

「勉強」はダメ

世の中「勉強」をするヤツが多すぎるので、大学にいる間だけは「勉強」はするな!

「勉強」とは無理強いすること。そして、かろうじて向に合わせること。ことごとく、その意味だ。

だから「勉強」はするな!

学べ、習え、鍛えろ。

知的好奇心を存分に刺激して求めよ!

一番大切なことは、なぜだろう? って考えることなんだ。

今田好彦

今田好彦氏が亡くなってから、この新聞発行にいたるまでに、葬儀日程の連絡や原稿の依頼・受領など、さまざまな通信メディアを利用してきか。かつてはIT革命などと胡散臭く謳われていたが、この3カ月ほどに関しては、携帯電話やEメールの普及に大きく助けられた。これは間違いのない事実であるといえよう。▲4月も終わろうとしていたある日、共同通信社が中国共産党元総書記である趙紫陽氏の死去を報道した。しかし、その後中国政府は趙紫陽氏の生死に関する一切の発表を行わなかったこととなり、各種報道機関もなんとなくやむやまにまると「無かった」とかのようになされてしまった。確かに中国の政治事情を思えば、追跡取材が難しいことはわかる。しかし、中華人民共和国という巨大国家の元首を務めたほどの人物である。その生死について、まるで情報が伝わらないというのはいかなるものだろうか。▲ミクロのレベルで情報技術の発展に助けられた一方で、マクロのレベルではその発展に振り回される。これが現在の情報技術というものの一端である。このようなことを愚痴つたりしたら「よしよし、せんはそんなもんだつちや」と故人には笑い飛ばされてしまふだろうか。▲なお、中国政府は5月26日に趙紫陽氏の生存を公式に発表しているが、それについて報道した機関が極めて少なかったことも、報道機関への疑問符として追記しておく。

**余力** 今田好彦氏が亡くなってから、この新聞発行にいたるまでに、葬儀日程の連絡や原稿の依頼・受領など、さまざまな通信メディアを利用してきか。かつてはIT革命などと胡散臭く謳われていたが、この3カ月ほどに関しては、携帯電話やEメールの普及に大きく助けられた。これは間違いのない事実であるといえよう。▲4月も終わろうとしていたある日、共同通信社が中国共産党元総書記である趙紫陽氏の死去を報道した。しかし、その後中国政府は趙紫陽氏の生死に関する一切の発表を行わなかったこととなり、各種報道機関もなんとなくやむやまにまると「無かった」とかのようになされてしまった。確かに中国の政治事情を思えば、追跡取材が難しいことはわかる。しかし、中華人民共和国という巨大国家の元首を務めたほどの人物である。その生死について、まるで情報が伝わらないというのはいかなるものだろうか。▲ミクロのレベルで情報技術の発展に助けられた一方で、マクロのレベルではその発展に振り回される。これが現在の情報技術というものの一端である。このようなことを愚痴つたりしたら「よしよし、せんはそんなもんだつちや」と故人には笑い飛ばされてしまふだろうか。▲なお、中国政府は5月26日に趙紫陽氏の生存を公式に発表しているが、それについて報道した機関が極めて少なかったことも、報道機関への疑問符として追記しておく。

**今田好彦氏の眠る地**

今田好彦氏は、浦和美園駅から徒歩10分ほどの「浦和美園」に埋葬されました。戒名は「教導院龍吟日好居士」。人を教え、導くことに大なる喜びと責任を感じ、中国また日本でも霊獣として貴ばれた龍を好み、歌というものを深く愛した好彦氏にふさわしい戒名と言えます。生前の好彦氏を知り、好彦氏のお父様にも戒名をつけていただいたお坊様にお願ひし、この戒名となりました。

浦和美園は「ガーデン・公園墓地」と称するほどに、花と緑に囲まれた霊園です。人と集い、互いの意見を交わし合うことを好んだ好彦氏ならば、季節の折々やお近くをお通りの際にお立ち寄りいただければ、きっと相好を崩してお欲ひになることでしょう。

「浦和美園」  
埼玉県さいたま市緑区  
大字大門字西裏1928-1-1

**今田好彦奨学金頒授典礼**

9月6日、今田好彦氏の奥様である敬子さんと長男の好敬さんが上海の復旦大学で行われた「今田好彦奨学金頒授典礼」に出席し、寄付金の贈呈式を行いました。

1995年、今田好彦氏は復旦大学で、マスコミ学を志しながら地方出身などで貧しい苦学生を対象とした「今田好彦奨学金」を設立。この一個人の寄付による奨学金は、これまで100名近い学生が対象となっていた。

復旦大学新聞学院ではこの寄付金には金額を越えた大きな価値があるとして、その精神を「今田精神」と表現し、教え続けている。

白帝社

**新聞で読む現代中国**

今田好彦 編著  
梁春香 編著

文法事項の説明や言葉の解釈に適した、新聞記事を題材とした中級者向けの中国語教科書。新聞記事を題材とすることによって、正しい文法を身につけるだけでなく、時事的な表現理解にもつながっている。90年代の中国を知るための入門書としても最適の一冊。

本体700円+税

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-1  
電話03-3986-3271 http://www.hakuteisha.co.jp/

白帝社

**新聞で読む21世紀の中国**

今田好彦 編著  
梁春香 編著

21世紀の中国におけるインターネット普及状況や休日過ごし方などの最新情報に加え、前作『新聞で読む現代中国』を時代の流れに即したかたちで改訂。中国の基礎的な情報となる日中外交などの記事は引き続き掲載し、中国理解のための一助としている。

本体700円+税

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-1  
電話03-3986-3271 http://www.hakuteisha.co.jp/

日本経済新聞社

**小説大上海(上・下巻)**

俞天白 著  
今田好彦 訳  
折敷瀬興 訳

「吉慶里三十六号」の共同住宅に暮らす八組の家族を通じて、上海市民たちの苦悩、不満、嘆きといったものを余すところなくさらけ出している。上海への深い理解と愛情によって描かれた本書は、当時の中国共産党指導部にも強い衝撃を与えた。

本体700円+税

〒100-8066 東京都千代田区大手町1-9-5  
電話03-3270-0251 http://www.nikkei.co.jp/

中央公論社

**現代中国百景 ヒゲで撫でた胡同**

今田好彦 著

元毎日新聞北京支局長が足かけ六年にわたって見聞した中国人の暮らしが、本書にはいきいきと描かれている。そこには、中国共産党や社会主義国家に對したジャーナリストではなく、人間を愛し、庶民の生活にどう寄り添ったフィールドワーカーの姿が見てとれる。

本体600円+税

〒104-8320 東京都中央区京橋2-8-7  
電話03-3563-1431 http://www.chuko.co.jp/

**編集後記**

告別式後の懇話会で追悼文集製作のお声を掛けて頂き、七月初旬作業開始。皆様の様々な思いに触れる機会を得た。共通して、思う事多々有り、気持ち先走り、文章に出来ないとの事。想いを伝えるのはとても難しい。(松田)

あの人は最後に何を思っただろうか。そんなことを考えながらこの本を作った。

先生が大切にされた「縁」。残ったわれわれは、これからも紡ぎ続けていくだろう。TEAM縁(仮)はずっと続いていく。「縁」とともに。(中島)

今田先生を通じて縁によって、編集という仕事に就いた。そこで身につけた知識や技能が、今回の制作に役立っている。このようなカタチを示すとは、まったくもって奇妙な縁である。この先はどうつながっているのやら。(五十嵐)

「あれ見よよしこの常磐の森は、心のふるさとわれらが母校。集り散じて人は変れど、仰ぐは同じ理想の光いざ声そろへて空もどろに、われらが母校の名をばたへん。わせた……」先生がどんなに沢山な事を感じ、どんなに沢山の事を言わずに我慢したか。(天野)

多くの方々のお話を聞いて、先生のこと、逝ってしまった後でいろいろ知ることが出来た気がしました。やっぱり短かったなあ、一緒に居たの、と少し悔しく思いました。(長谷部)

毎日文章を書く人の大変さを今回はつくづく感じました。一番チェックして欲しい先生の追悼文とは皮肉な話です。それにしても今田研究室メンバーは見事なチームワークでこの新聞を完成させました。天国にいる先生の分まで一言……。(原田)

まだ縁がないと思っていたことが突然の知らせでやって来る。驚きだ。今田先生の訃報の後、先生の関係者と会っていたら、結婚した人、子供が出来た人がいた。

立ち止まっていられないんですよね。(西山)

編集長：松田宏 企画・編集：遠藤剛、中島祐次 編集・DTP：五十嵐信吾 校正：斎藤陽子 語り部：天野隆、佐藤拓道、長谷部真琴 幹事：原田敏史、西山正樹 原案：清藤天

**中** 「この場所はまさしく『ゼミ』だった」  
 まあ、社会人の飲み方に対して危惧していたところってのがあるんだ。「居酒屋とかに飲みに行く」と、そこで飲んでる社会人の飲み方が悪いのわかってるけど、社会人になってから学ばないじゃねえ、学生ん時からちゃんとしくちやいけねえ」って。  
**松** そういった行儀・礼儀には厳しかった。  
**中** だから、ここ(松月庵)の席は特にそういうのに厳しかった。  
**松** 「この場をただの飲み会にはしてくるなよ」って、そういう叱り方をしていたの覚えてる。  
**中** タク酒が飲めると勘違いしてきた連中がいた時も「俺はボランティアであんならに酒を飲ましてんじやない。ちゃんといろいろな話をする奴らが欲しくて、こういう場を設けてんだ」って怒ったこともある。  
**長** 私、来るものは拒まず、なかかと思つた。  
**中** いや、基本的にはそうなんだけど、最低限の節度もわきまえないような奴

**松** たその日に、一緒に飲みに行つたのは間違いないなんだよな。それで、なんか話して面白くて、その頃は月1くらいのペースでオールやってた。俺は総合Ⅱの最初の講義で、おっちゃんとか河村さんが入ってきたのを見て「うわっ、教授が仙人連れて来た」って思った。仙人の方が教授だった。あつ、僕もそれ思った。河村さんの方が教授っぽかった。ただ、今田先生への印象は仙人じゃなくて「あつ、ミッキー・カーチスだ」だったけど。  
**五** 俺は先生と初めて会ったのが講義じゃなくて、飲み屋。しかも野郎ばかり三人だけだったせいか「語りモード」でしたからね。「随分と熱い人だなあ。今時こんな教授が存在してんだ」ってのが第一印象ですかね。

**松** 「きつかけみたいなのも大切さとか」  
 まあ、そんな風に教授らしくない今田先生でした。が、教わったこと、なんたのはありまじか。なんたの「今田新聞」の寄稿文書いてて思ったのは、具体的なことってのは思つていいた以上に教わつていないんだな。て、いや、教わつていないわけじゃなくて、言葉としてもらつていないというか。  
**天** 場の空気とか雰囲気だったりするよね。あと、僕の場合「確率、かな。確率?博打とか?」  
**松** うん。まあ確率というか、運命とか確率合わせみたいなものかな。そういうのちよつとたきつかけみたいなのも大切さとか。これも先生の態度とかから、直接言葉で教わつたわけじゃないけど。うーん、あと教わつたのは携帯電話のメモリには女性の番号しか入れない、とか。

**中** 側に行つたりと飛び火して、いろんな意見があつちこちから出てくるのが大好きだったから。  
**五** それと結局は同じところに通じるとは思うんですが、俺はこの研究室を通じて年下と話ができるようになった、っていうのが俺が言うのも何ですが、ガキの頃から、上の世代の人と話す機会の方が多かったし、その方が多かったから。だからホンの何年か前までは、年下とまるつきり話せないで、というよりも話をして、したいとも思わなかったし。  
**中** そのへんは、先生の連れてくる手たちはそれなりのおタマだったから。いそうなんですよ。いざ話してみたら、まあみんな面白い。それぞれに意見もあって、ぶつたま隣り合つて座つた者同士の話が、まず向かい側に行つたり、部屋の反対

**松** 「つまんない大人にはなるなよ」  
 ここでは一番新しい学生として、先生から教わつたことをぜひ。結構一対一で飲む機会とかもあつたんでしょ?  
**長** 私の場合は、教わるっていうか、いろいろ言われましたけど。  
**松** 何を言われたの?  
**長** うん、「ガキ」とか。率直だ。  
**中** 私がいつも「大人になりたい」って言つてたせいもあるんだろうけど、でも「つまんない大人にはなるなよ。いい大人になるんだろ」とも言つてくれて。  
**中** おっちゃんも端で見ててすごく楽しかったんだと思つよ。  
**長** あとは「もがけ、もがけ」「悩め、悩め」って、ホントすつこい笑つて言うんですよ。教えられたっていうか、バカにされたっていうか……。  
**松** それはねえ、バカにしてるっていうんじゃないかな。でも、私結構好きだった

**中** は、結構よかつたと思うよ。あの頃、朝霞の校長先生やってて相当に忙しいから。あそこでもみんなが話してるのを見て、少しはストレスも軽減されてたんじゃないかな。  
**中** 普段と一緒だよな。学生同士で勝手にしゃべらせて、横でそれ聞いて楽しんでるって感じが。  
**松** そうですね。「ガキ」って言われて「なんすかつ」とか言つて。  
**中** おっちゃん挑発してたんだよ。  
**五** 反発心を煽るつづうのはよくやりますよ。  
**中** おっちゃん大好きだから。その手の技。  
**松** 学生もそうだけど、いざ社会に出た人たちは含めて、教え子一人ひとりの成長を眺めるのが大好きな人だったから。「ああ、これからこの子はこうなるんだろ」とか。  
**中** それが好きで先生やってたんだろな。  
**五** 具体的に「こうしろ」って教えはしない先生でしたよ。  
**松** そりゃ、行儀・礼儀に対しては厳しかったもん。酒の席には特に厳しい。やばい飲み方とかしてる奴なんかはぼつちり怒られてたし。  
**中** 外で飲んで騒いでいる時

**松** 「あつ、ミッキーカーチスだ」  
 本日は今田好彦氏の四十九日にあたるということもありまして、かつて毎週のように通つては飲み交わしましたこの「松月庵」で、今田好彦とは何者だったのか、というテーマで話をしたいな。う、ふさわしい天候でもあります。  
**上** の方で「そんな話するな」って邪魔してるんだよ。  
**松** まあ、とりあえずの話のきっかけに、皆さんから「今田好彦第一印象」でもお伺いしましょうか。  
**佐** 僕はなんだろうなあ、第一印象ってのはちよつと違うのかもしれないけど「ヒットした」って印象が残つてるかな。中国語の講義を受けてたんだけど、最初の時に先生が「出席はとらない」って言ったもんだから学生誰も来ないのよ。それで先生と二人きりだけたりしたから、途中から教室を出てコーヒー飲みながら話をしたりして。それで色々話していたら、なんか自分のなかで「ヒットした」というか。  
**天** ん、第一印象か、なんだろうなあ。とりあえず、初めて先生の講義を受け

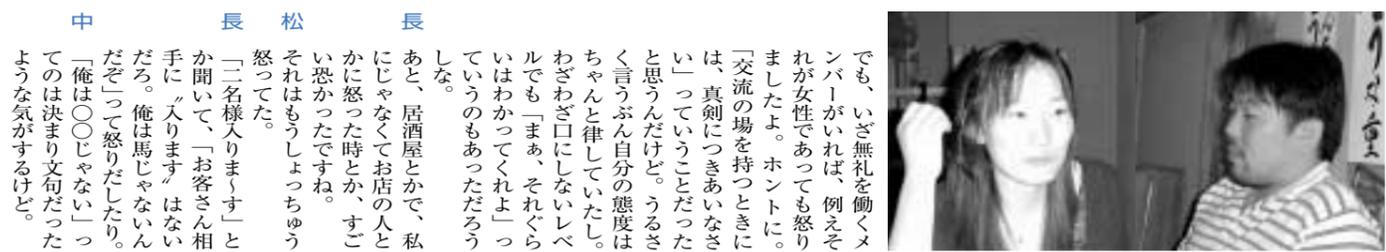


**長** 私の第一印象はバリバリ外見ですよ。だって、初めての講義の時に、あのヒゲで、ジーンズで、デニムのシャツに赤いネクタイして、その上に皮のベスト着てるんですよ。「教授」としてありえないでしょ。先生が教室に入ってきた時、友達と声をあげて笑っちゃいましたもん。  
**中** 会議のある時でさえ、上に紺ブレ羽織るだけだったからな。  
**松** いでしょ。先生が教室に入ってきた時、友達と声をあげて笑っちゃいましたもん。  
**佐** あつ、それは僕も直接教わつた。具体的に。最近だもんね。男の電話番号が登録されるようになったの。それも連絡先としてほんの数名だけ。連絡に関しては、「裏・今田研究室」ができたのは大きかつたよ。  
**松** ちよつとその頃は、研究室に頻繁に来てた学生もみんな卒業しちゃって、大学の研究室なのに学生がいらないという、一番の危機でしたな。  
**五** でしたな。それでまあ、俺としたもせつかく知り合えた方たちとなく崩しに疎遠になるのはあまりに勿体ないと思つてたし。それで、地方やら海外やらへと帰つたり、旅立つたりする人もそこそこいたから、ウェブだったら距離に関係なく連絡を取り合えるなと思つて作つたんですけどね。あそこはみんな見てるよ。書き込みしてない人

**松** も結構見る。なんで書き込みしないすかね。恥ずかしいですよ。何を言っているかわからないですし。  
**五** 先生も書き込むことは少なかったんですよ。でも、あれができて、もちろん直接顔を合わせて話す場所ではないんだけど、誰かしらに連絡がつくようになったっていうの……。  
**中** 「つまんない大人にはなるなよ」  
 ここでは一番新しい学生として、先生から教わつたことをぜひ。結構一対一で飲む機会とかもあつたんでしょ?  
**長** 私の場合は、教わるっていうか、いろいろ言われましたけど。  
**松** 何を言われたの?  
**長** うん、「ガキ」とか。率直だ。  
**中** 私がいつも「大人になりたい」って言つてたせいもあるんだろうけど、でも「つまんない大人にはなるなよ。いい大人になるんだろ」とも言つてくれて。  
**中** おっちゃんも端で見ててすごく楽しかったんだと思つよ。  
**長** あとは「もがけ、もがけ」「悩め、悩め」って、ホントすつこい笑つて言うんですよ。教えられたっていうか、バカにされたっていうか……。  
**松** それはねえ、バカにしてるっていうんじゃないかな。でも、私結構好きだった

**松** は、結構よかつたと思うよ。あの頃、朝霞の校長先生やってて相当に忙しいから。あそこでもみんなが話してるのを見て、少しはストレスも軽減されてたんじゃないかな。  
**中** 普段と一緒だよな。学生同士で勝手にしゃべらせて、横でそれ聞いて楽しんでるって感じが。  
**松** そうですね。「ガキ」って言われて「なんすかつ」とか言つて。  
**中** おっちゃん挑発してたんだよ。  
**五** 反発心を煽るつづうのはよくやりますよ。  
**中** おっちゃん大好きだから。その手の技。  
**松** 学生もそうだけど、いざ社会に出た人たちは含めて、教え子一人ひとりの成長を眺めるのが大好きな人だったから。「ああ、これからこの子はこうなるんだろ」とか。  
**中** それが好きで先生やってたんだろな。  
**五** 具体的に「こうしろ」って教えはしない先生でしたよ。  
**松** そりゃ、行儀・礼儀に対しては厳しかったもん。酒の席には特に厳しい。やばい飲み方とかしてる奴なんかはぼつちり怒られてたし。  
**中** 外で飲んで騒いでいる時

**松** でも、いざ無礼を働くメンバーがいれば、例えそれが女性であっても怒りましたよ。ホントに。「交流の場を持つときには、真剣につきあいなさい」っていうことだったと思うんだけど。うるさく言うぶん自分の態度はちゃんと律していたし。わざわざ口にはないレベルでも「まあ、それぐらいはわかってくれよ」っていうのもあつただろうしな。  
**長** あと、居酒屋とかで、私にじゃなくてお店の人とかに怒つた時とか、すごい恐かつたですね。それはもうしよつちゅう怒つた。  
**松** 「二名様入りまじす」とか聞いて、「お客さん相手に、入ります」はないだろ。俺は馬じやないだぞ」って怒りだしたり。「俺は○○じゃない」ってのは決まり文句だったような気がするけど。  
**中** でも、いざ無礼を働くメンバーがいれば、例えそれが女性であっても怒りましたよ。ホントに。「交流の場を持つときには、真剣につきあいなさい」っていうことだったと思うんだけど。うるさく言うぶん自分の態度はちゃんと律していたし。わざわざ口にはないレベルでも「まあ、それぐらいはわかってくれよ」っていうのもあつただろうしな。



\*「裏・今田研究室」 http://www.igashin.net/

**激震! 今田好彦のヒゲなし写真流出!!**  
**「男は絶対連れてくるなよ」**  
**女子学生との加熱ウラ攻防**  
**名物ヒゲ教授と元教え子**  
**ラブホ前での親密**  
**ツーショット写真**  
**飲み屋で「今田伝説」30**  
**語られた「今田伝説」30**  
**●ヒゲ筆は実在するのか●宝箱の中には何が**  
**私は本当に胸を触られた**  
**自ヒゲに触れた女性が**  
**激衝撃の事実を告白**  
**「余りの養育に、**  
**実」とつさには動けませんでした**  
**酒を愛し、食を愛した男が足繁く通った**  
**隠れ家的名店TOP10**  
**飲み会をもっと盛り上げる**  
**「イマダレシピ」大公開**  
**今田好彦氏が遺した**  
**最後の原稿を追え!**  
**竹折も雲南省の秘薬**  
**効果抜群**  
**特別と美しき女神たち**  
**徳関書店**



髭の肖像

ともに過ごした時間、交わした会話、酌み交わした酒。ただの思い出にしない、それが私たちの誓い。



# 今田好彦追悼文 教室の内外で教えを受け、その遺伝子を継ぐ弟子たちの想い

## 「一番搾り」銀座

25歳「志乃ぶ」に通う回数が増えましたね。「いい」休業状態になりましたね。  
26歳「早慶戦」劇的な勝利でしたね。やっぱり早稲田の血が流れていましたね。  
27歳「絵」が今年のお決まりコース。馬刺しと佳子ちゃんがつまみでしたね。  
28歳「ゆめボーク」知子ちゃん家の豚。おいしかったです。今年一番、超抜の食事でしたね。  
29歳「旅立ち」大槻さん、志奈子ちゃん、ふみちゃん他、みんなで見送りましたよ。  
??歳「天国」で、今度は一緒に行きましょう。中国とオートレース。おねがいしますよ。



21歳「再会」1年ぶり。3コマ目の授業。この頃は毎回オールナイトでしたね。  
22歳「養老の滝」が今年のお気に入り。この頃からワイ1クリーになりましたね。  
23歳「いいい」発見。お店、いつ行っても貸しきり状態でした。  
24歳「太公望」の時間限定半額ビールと焼餃子がおいしくなりましたね。  
25歳「志乃ぶ」に通う回数が増えましたね。「いい」休業状態になりましたね。  
26歳「早慶戦」劇的な勝利でしたね。やっぱり早稲田の血が流れていましたね。  
27歳「絵」が今年のお決まりコース。馬刺しと佳子ちゃんがつまみでしたね。  
28歳「ゆめボーク」知子ちゃん家の豚。おいしかったです。今年一番、超抜の食事でしたね。  
29歳「旅立ち」大槻さん、志奈子ちゃん、ふみちゃん他、みんなで見送りましたよ。  
??歳「天国」で、今度は一緒に行きましょう。中国とオートレース。おねがいしますよ。

## 交杯

50嵐信吾  
故有酒席喧  
会朋自乾盞  
泰然見蓮山  
有情淚沾禪  
有感滿杯盤

## 2ヶ月と18日

### 伊奈恵子

これが私が先生と出会って、過ごした期間である。人が心から尊敬できる人と出会いは、そして別れるにはあまりに短すぎる時間ではないだろうか。今年の4月に始まったゼミで、先生は私達に毎週作文を課した。1番最初の課題を出されたとき、私は少し悩んだ。受験期に小論文を学んでいたのに、文章を書く「戦法」は知っていない。しかしそれは私の書きたいものではなく、ただ理論に従って書いているだけだった。私は自分の思うままの文章を書きたかった。が、受験を突破して入ってきた大学、やはり同じものではない、と評価されたいのだと思う。「戦法」に従って書いた。結果はもちろん惨敗。先生の書く一言もなんとなく気の抜けるものだった。悔しかった私は、次の「夢」という課題で、1年ぶりに自分の思うことをそのまま文章にした。次の週、私の文章は手放しで褒められた。今まで周りに否定されてきた自分の感覚を、何よりも認めてくれる人に出会

えたときの喜びは、言うまでもない。それから先生の亡くなる前日のゼミまで、私の文章は毎週クラスで読まれた。今ほとんどないうまい文章を書いても、それを褒めてくれる先生はいない。しかし、種は時かれた。私は、先生からたくさんの自信と出会いをもらった。そして、先生から学ぶことはまだまだたくさんある。「忘れなければ、そこからは何もなくなる」と私は思う。先生と出会えたことを、心から感謝していきたい。

## 先生、ありがとう。

### 伊原久恵

「先生ありがとう。先生に会えて本当に嬉しかった。一枚一枚にこう話しかけた。今にも写真から抜け出してきたような先生の表情。思わず「ほら、先生、このときのこと覚えてる？あれあれ、……」と一瞬先生に電話しようとした。でも次の瞬間にはちゃんと先生の返事が心の中で聞こえてくる。まるで写真に納まった一場面の続きを見るように「おーおー、あれはさあ……」なんて楽しく話す先生の声が、もっとたくさん話したかった。もっといっぱい会いたかった。嵐のように私の目の前に現れ、そして去っていった先生。とても優しく、そして一日一日を思いっきり生きてきた先生。先生が大好きな中



## 無題

### 岩崎傑

先生の計報を知って目の前が一瞬真つ暗になった後、頭に浮かんだのが映画のワンシーンだった。今田先生もジョー・ブラックが見ていた人ではないだろうか？  
「またか。いつかいつまでやるつもりなんだ？」これが最近の私の感情だった。皆、卒業生も30才を超えてきている。卒業生が出席するということの足掛かりを造ってしまつた私は反省することも多かつた。最近の日本経済は厳しい。不況、リストラ……。あの意味で居心地がよかつたのも事実であった。しかし社会に出て気がついたこともあった。それは今田先生がマスコミ界、中国学会で大変な大物な人物でいらしたということである。安っぽいテレビ番組にでてて売名行為をすることはせず名もなき生徒に教育するという道を取って選んだのである。まだ学生時分、先生が「俺はある人に言われたけど長生きはしないよ。」とよくおっしゃっておられました。だからこそ身近な生徒にご自分の生き様を伝えたかったのではないのでしょうか？これからは「今田先生は何を伝えたかったのか？」を考え生きていこうと思います。

## 今田先生へ

### 岩崎三知代

「このサンタクロースのようなヒゲの人だあれ？」と家族が卒業式の写真を見たとき言った言葉でした。その日から数えてもほんの1年余り。何と短いお付き合いだったのでしょうか？



## 学生記者と先生

### 遠藤剛

今田先生との出会いはいつのことだったか、正確には覚えていない。確か二部の総合の授業に潜り込んだ頃からの付き合いであったと思う。講義に出てはその後の松月庵での飲み会で本当に色々な話を伺った。ただ、私と先生は、学生と教授というよりも、記者とネタ元という関係の方が大きかったように思う。東洋大学の学内メディアKAN KANで取材をしていた私は、ずいぶん多くの話題を先生に提供してもらった。今だから話せるが教授会で配られた内部資料をずいぶん頂いたし、板倉新学部構想では、教授会の粉砕ぶりを先生におもしろく紹介していた。そして、それを後追い裏付け取材するといった活動が多かった。先生にうまく乗せられて記事にさせられたのかもしれないが、むしろ先生の学生側から見た視点での公憤が私を虜にしたと言っている。そんな活動の中で、忘れられないことがある。板倉新学部



## 室内講義の思い出

### 大槻昌寛

中国語Ⅲを受講したのは、私が2年生のときだから、今から10年前になる。開講2年目であったと思う。当時、登録者は20数名だが、実際の出席者は数名であった。講義の後は、先生の予定の許す限り、飲みに行った。店が満員にならないように、教室は早めに切り上げ、店で継続した。人数が少なければ「し」のぶへ、多ければ「いいい」や「串亭」へと足を運んだ。2人で行くことも多かった。和敬塾に住んでいる私が店を選ぶので、大学近辺ばかりであった。思えば、皆、熱心に話をした。時事を題材に真面目な話もすれば、他愛も無い話まで。個性豊かな者ばかりで、同じ講

## 交杯

50嵐信吾  
故有酒席喧  
会朋自乾盞  
泰然見蓮山  
有情淚沾禪  
有感滿杯盤

## 2ヶ月と18日

### 伊奈恵子

これが私が先生と出会って、過ごした期間である。人が心から尊敬できる人と出会いは、そして別れるにはあまりに短すぎる時間ではないだろうか。今年の4月に始まったゼミで、先生は私達に毎週作文を課した。1番最初の課題を出されたとき、私は少し悩んだ。受験期に小論文を学んでいたのに、文章を書く「戦法」は知っていない。しかしそれは私の書きたいものではなく、ただ理論に従って書いているだけだった。私は自分の思うままの文章を書きたかった。が、受験を突破して入ってきた大学、やはり同じものではない、と評価されたいのだと思う。「戦法」に従って書いた。結果はもちろん惨敗。先生の書く一言もなんとなく気の抜けるものだった。悔しかった私は、次の「夢」という課題で、1年ぶりに自分の思うことをそのまま文章にした。次の週、私の文章は手放しで褒められた。今まで周りに否定されてきた自分の感覚を、何よりも認めてくれる人に出会

えたときの喜びは、言うまでもない。それから先生の亡くなる前日のゼミまで、私の文章は毎週クラスで読まれた。今ほとんどないうまい文章を書いても、それを褒めてくれる先生はいない。しかし、種は時かれた。私は、先生からたくさんの自信と出会いをもらった。そして、先生から学ぶことはまだまだたくさんある。「忘れなければ、そこからは何もなくなる」と私は思う。先生と出会えたことを、心から感謝していきたい。

## 先生、ありがとう。

### 伊原久恵

「先生ありがとう。先生に会えて本当に嬉しかった。一枚一枚にこう話しかけた。今にも写真から抜け出してきたような先生の表情。思わず「ほら、先生、このときのこと覚えてる？あれあれ、……」と一瞬先生に電話しようとした。でも次の瞬間にはちゃんと先生の返事が心の中で聞こえてくる。まるで写真に納まった一場面の続きを見るように「おーおー、あれはさあ……」なんて楽しく話す先生の声が、もっとたくさん話したかった。もっといっぱい会いたかった。嵐のように私の目の前に現れ、そして去っていった先生。とても優しく、そして一日一日を思いっきり生きてきた先生。先生が大好きな中

座を受講していることだけを頼りに話をする中、少しばかり見識を深められたように思う。これからは縁ある皆様とお話をさせて頂きたい。先生には、そういう人を惹き付ける求心力があった。私にとって文字通りの「老師」であり、翌年以降も、卒業して関西に散じてからも度々お世話になった。多くの話をした。が、なお、話し足りない。今でも、酒を片手に、話をしたいと切に願う。

「し」のぶの暖簾を潜ると姿が見える。禁日本酒の戒を破って唯一飲まれた樽酒を片手に、ヒゲを撫で、嬉しそうに、こちらに気が付いて、振り向いた目が少し驚いて、そして優しく、次いで悪戯っぽい目つきになって、あの声が聞こえる。「あゝた、何してんの。まあいいや、飲もう。」

## 思い出の道

### 岡田美樹

2年前の初夏のことです。先生の授業が終わると、先生と帰り道が一緒になった事がありました。私達のゼミでは、授業の後に裏ゼミと称して、飲みに行く事がお決まりとなっていたのですが、その日の先生は、翌日に病院の検査を控えており、飲みに行くことができず、飲みあまり顔を出不さない私とめずらしく帰り道が一緒になったのでした。まっすぐ帰るのはつまらないから、という先生の提案で、白山から日暮里までの夜道は二人で冒険しながら寄り道して歩いて帰ろうということになりました。白山から団子坂を下り、谷中銀座商店街を通

り、日暮里駅で電車に乗らずに、西日暮里まで歩いて帰りました。先生は、このコロッケ屋はうまいとか、この小料理屋の料理はうまいとか、このホテルは昔からあったんだとか、この道をまっすぐ行くと駄菓子屋があるんだとかいろいろなる事を教えてくれました。

## お付き合いさせていただいて、まだ短いですが……。

### 植元貴久

高崎18年、沖繩9年、マレーシア13年の私と今田先生が出会ってからまだ1年も経っていません。勿論大学も違いますが、経歴も違います。そんな私と今田先生との接点は唯一沖繩滞在中の経験があるということでしょう。そして、それを取り持ってくれたのが、沖繩出身の渡口百恵さんです。彼女がマレーシアで仕事しているときに今田先生が遊びに来られたのです。初めてお会いして以来、なぜかお気に召していただき、マレーシアで幾度か、その後は2回ほど東京でご一緒させていただきました。そんな短いお付き合いでも、私自身もなせから気になる存在の先生でした。マレーシア滞在中にある試験に合格し滞在延長が決定したときも、ご自分のことのようにお喜びいただいたことを思い出します。「これで新たにマレーシアに滞在拠点ができた」とメールをいただいたときには本当に感激いたしました。全く嫌味のない直接的な表現です。どんな言葉よりも有難く感じました。それに、お酒を嗜まれるときのあの姿も目に焼きついています。私もあんなふうにならねて斜に構えてお酒を嗜めるようになりたいたいです。そう私が思うほど先生の傍らにはいつもお酒がありました。私にはこれくらいのことしか今田先生については語れませんが、今田先生のお言葉としてお姿は今でも私の心

の中に生きております。素晴らしい思い出を有難うございます。感謝いたしております。今田先生！

## 先生との思い出

### 工藤香

「僕は工藤さんにナンパされたんだ。逆ナンパ、っていうやつだよ。先生は私との出会いをこう話してくれました。先生によると街中で声を掛けられたことが3回あった。1回は宗教、1回は何故か街中で議論させられた。最後が私。12年前、大学2年生だった私は確かに先生をナンパしたのです。その頃インカレサークル「日中学生会議」に入っていた私は渉外先名簿に先生の名前を見付けました。東洋大学にも中国関係の先生がいるんだ。覚えておこう。その何日か後に見た大学報に先生の姿が。今田先生って凄いな。先生」と私の



ゼミでの指導、その後の「みやこ」での飲み会、そして卒業式の日、先生と父兄席で同級生を探し、誰がそこに座り、誰と誰はあそこに居ると楽しんだ思い出、教室で卒業証書を渡す時、大きな声で名前を呼んで、今田ゼミ生に大きな拍手を贈った事など、本当についてこの間のことでした。人生を謳歌した先生に思い残すことは少ないでしょうが、残された若者たちにとつては、まるでサンタクロースのプレゼントのような出会いで、この出会いを大切にこれからの人生を生きてもらいたいと思わずにはいられないのです。そしてわたしたは大学院の修了の時には先生と祝杯を交わそうと考えていたのですが……「今田先生、卒業式の日」「みやこ」のあの席で待っていますよ。きっと先生は先に来て、待っていてくれますよ。」

来世でもまた酒を酌み交わすことを楽しみにしています。



# 酒と肴と人との出会い

**髭のひげが逝った夏に 思うこと** 中島祐次

巨星墜つ。突然に、そしてあっけなく。生き急いだかのような人生。多くの人いろいろなモノをたくさん残して。大人のしきたりを教えてくれたのは、あなた。かけがえのない朋友と逢わせてくれたのは、あなた。今、私がここにきつかけをくれたのは、あなた。

出合いは衝撃的。「仙人が大学にいる!」話を聞いてみて感動。「この人は凄え!」一緒に呑んでさらに震撼。「人として深い!」そして、あなたにいろいろなことを教わった。

そして、いつの間にか12年。無理をしなくてもよかった。心を隠さなくてもよかった。いつも、安心してよかった。いつも、笑っていた。

あなたが逝ってしまった日、とうとう、あなたの姿を見ることはできなかつた。悔しかった。夜中、涙が止まらなかつた。でも、「あなたは自分のやるべきことをやりなよ。」そう言われている気がした。誓いますよ。あなたにそつちで、会ったときに必ず、「おい、あんないい男になつたなあ。うんうん。呑もうか。」そう言わせること。先生。髭を整えて、待って。先生。

# 酒と肴と人との出会い

**大好きな今田先生へ** 寺西美香

この9年間で数え切れない時間と共に過ごして来ました。一度だけ先生とデートをした事がありました。学生の頃、映画招待状を10枚貰ったので「みんなで観に行きませんか?」と誘うと今田先生が「姫、二人で一緒に行こう」との一言で土曜の夕方、余う事にしました。先生はいつものベスト姿にコート、大きなかばんで「おー姫!」と登場しました。「このとんかつは昔から本当にうまいんだよ!」と言い、三金で夕食をご馳走してくれました。それから2本映画を観て帰ろうとする私に、先生が「今から時間があるかい?」と言われるままに10分ほど歩きゴールデン街にあるこじじいというお店に着きました。カウンター越しに「いらっしやい、めずらしい人といらしたのね」とやさしく向かえてくれました。一気に緊張が解けました。カウンターに座ると水割りセツトが並べられました。水割りを飲んだことがない私は、見真似で水割りを作って飲んで



今田先生

**ずいずい大人** 西田孝枝

今田先生は私の中でずつと、ずつと「ずいずい大人」です。先生と出会えたことは、私の人生の中で大きな財産です。「東洋大学報」に、「我が青春を変えた一冊の本」(たしかこんなタイトル)というコラムがありました。学生時代、大学の広報室の前でたまたま手にしたバックナンバーに、今田先生が書いた号を見つけましたのはめつものでした。そこには、高村光太郎の「道程」の中の「さびしきみち」のエピソードが書かれていました。「こころよわがこころよもおれのすがたこそずいずい大人」

**涙そうそう** 西山正樹

先生のことを思う時、いつも僕のことを思い出し、ほめてくれたことを思います。先生が僕を紹介する際によく朝霞で飲んでた時のエピソードをあげます。先生を含め4人程度で飲んでた時、東

みました。その味はほろ苦くちよつぱり大人になったような気持ちでした。死んだ父と「飲んでみたかった」と言う「これから幾らでも研究室にすれば飲めるじゃないか」との温い言葉に心の奥にある物が解けてゆくのを感じました。その言葉を境に時間も忘れて深い話をしました。あつという間に時間が過ぎ、門限が近付き母に電話を入れると案の定「今すぐ帰って来なさい」怒鳴り声が響き渡りました。すぐに隣に居た先生が変わって、宥めてくれた。母を説得出来る人に初めて会いましたが、その後こじじいを閉めて3人でラーメンを食べながら話を聞かせて頂きました。学生時代に門限を過ぎて遊んだ思い出が無私に、大人気分を味わわせてくれた先生、広い心で話を聞いてくれた先生に感謝しています。

**今田先生から いただいたもの** 藤堂彰寛

今を遡ること3年ほど前。地元友人だった五十嵐さんの紹介で東洋大学・朝霞キャンパスでの体育祭に遊びにいかせていただいたとき。そこで初めて今田好彦先生にお会いしました。サングラスにひげ、笑顔と大きな声が印象的でした。

**笑顔** 寺西慶高

こちらで 顔が笑えば みなが至福になり 顔が笑えば みなの方が暖まり 顔が笑えば みなの方が暖まり 顔が笑えば みなの方が暖まり



今田先生

き、先生はぼくの名前と以前話したことなどを覚えていてくれていて、とても感動したことを覚えています。人間味あふれる先生のまわりには、いつも素敵なお客さんがたくさん集まっています。その空間を少しでも共有させていたただいたことを幸せに思います。先生からいただいたすてきな出会いに感謝し、その出会いをこれからも大切にしていきたいです。

**帰り道** 渡口百恵

先生と出会ったのは1994年、総合科目の授業でした。先生の授業、人となりの印象は強烈でした。その授業がきっかけで研究室の飲み会に参加。様々な人が集まっていた。先生は人を惹き付ける力がある人。楽しくて遅くなる。先生と原田さんが30分も歩いて寮まで送ってくれました。朝まで飲んだり。先生のおかげで親戚のような仲間達が集まりました。先生がいたからこそ、皆が集まり、東京は戻って行ける場所だった。

**サングラス** 中尾佳志子

「予備の眼鏡がさあ、なくなつたんだよ。ここから折れて……今までは必ず、予備の眼鏡を買ったおいたんだだけ。」去年の秋だったと思う。金沢の近江町食堂で、とりとめもない話を聞いて、ふと眼鏡の話になった。

**一期一会** 中島澄恵

今田先生に初めてお会いしてから、わずか1年半でしたが、お会いすることが出来て、私は本当に幸せ者だと思います。短い人生の中で、こんなにも心に残る出会いと言うのはなかなかありません。そして、一緒に過ごさせて頂いた時間は短いながらも、たくさんの宝物を得ることが出来ました。それをこれからも大切に大切にしていきたいと思っています。

えませんでした。それは今でも私の課題です。私が大学4年になると、1年間中国へ行ってしまう先生に、「見ていて!先生!!1年後には、もっと手応えのある学生になってほしい」という気持ちでいっぱいでした。今は次に会えるチャンスを手に入れてくれて、先生がどこで見ていてくれて、自信を持って自分が自分でいられるように、過ごして行きたいです。

**語り尽くせない10年間** 萩原明

今田先生との出会いは、93年のマスメディアをテーマにした総合IIの授業であった。授業の後に何気なく研究室に立ち寄ったのをきっかけに先生と酒を飲むことが多くなりました。まず先生に驚いたのは、誰に対しても惜しみなく話しをするのであった。私のような者にも全力でぶつかり、それも嫌な押さえずけるような言い方ではなく、一流の表現者としての気質で語る姿を見て私はみるみるうちに引き込まれていった。

**先生との約束** 長谷部真琴

先生の周りほとども居心地がよくて……。突然いなくなってしまうなんて思いもよらなかつた。先生は私に自信と安心を与えてくれた。焦って焦って、「大人」に多大な期待をして、「大人」になりたくて、がむしゃらに突っ走っている私を、認め、肯定してくれ、「長谷部真琴」の成長を楽しみにしてくれた先生。応えたいと願い、ずつとずつと見ていくことを疑いもせず。週毎の飲み、卒業式、就職・初給料、もしかしたら結婚式(どうかな?)……。私の将来には当たり前のようにならなかつた。先生が約束したこと、全部守ってやるつた。見ていてね。今度会った時は約束したこと、全部やろうね。先生、大好きだよ。

から10年後の自分である気がする。先生が亡くなられたことで人生には限りがあることに初めて実感があった。先生はその有限な人生において多くの人達に影響を与えたことには間違いない。一人の人間として先生の後姿より多くはないだろう。そして、少し身置がすぎるが「人の価値がいかに長く生きたかではなく、何をしたかである」という言葉が先生にふさわしく思う。私は人生の中で大きく太い柱を失ったが、これからは馬蹄を重ねるだけでなく、有限である人生を価値あるものにするに邁進していきたいと思う。

# 酒と肴と人との出会い



「羽田め、飲みに行くぞ」と誘って下さった。一番印象深い所は「ことじ」だった。マスターとも何度か話しをさせてもらった。初めて行った時、見知らぬ客に手を舐められた事があった。それでも「ことじ」は居やすい空間だった。不思議な空間だった。誰もがそこに居る事を許されてしまう間口の広い空間だった。その空間に一枚の絵が飾ってあった。マスターはその絵を「産みの苦しみ」と言っていた。大きな穴の向こうは白い世界がうごめいている。色々な見方があるだろうが私にはその絵は人生の縮

図の様に思えた。人生を私が真摯に受けとめた瞬間はこの時だと思う。そして、ここで今田教授と語り合った事は一生の宝物。忘れられないものとなった。今田教授は本当に学生を、生きた事を愛した人だと思ふ。又、自分の思いを大切に、不器用な誠実さを持ってらした。私達、学生を常に多面的に見て、その個性を何より愛おしく思ってた。学生のお味方。それ故、ぶち当たる壁も多かったと思うが、今田流を一貫して通し抜き一歩一歩進んでらしたと思ふ。本当に私の人生における憧れの人がである。私も今田流を心に生きてゆきたい。今田教授に出逢えた事、そして、今田教授に思ふ。本当に有り難うございました。合掌

しかし、ママさんが間に入り、事無きを頂きました。無礼を容赦無く怒る先生でした。哀、それは、珍しく互いの連絡が成功し、待ち合わせが出来た冬の日。「一人では、顔を出し辛いから……」と、僕等を「ことじ」にお供した夜。丈夫さんを偲んで、無念の涙を流し、お姉さんと語り合っている時、その哀しみの深さを感じました。楽、学生、職員、OBOGを含めて、語らいの場を設けては、一期一会縁を紡ぎ、賑やかに騒いで、楽しんでおられました。交わした杯の数など、数限り無いでしょうが、まだ酒も肴も足りない様子。乾杯は僕等が続けていきます。とりあえず、もう一杯。

心の中にあり、とても言いにくいことを口にする機会がありました。すると、悩んでいた私に対し、「ごめんね。気付けてあげられなくて……」と一言。やっと素直になれた心、その友人は私と一緒に考え、そう答えてくれたのでした。その日は決して忘れられません。と同時に、先生に背中を押してもらえた様な気がするのです。素直に自分を語れるということは、こんなにも気持ちが良いものかと実感しました。いつまでも先生の教え子として恥ずかしくない人でありたい。この会でお会った友人を大切にしていきたいと改めて思いました。

初めて今田先生にお会いした日の事を、私は今でも鮮明に思い出す事が出来ます。大学2年となり、大分親しくなってきた語学のクラスの友人達と「新しい中国語の先生ってどんな人かな。」等とワイワイ喋りながら教室で待っていた時でした。私は教壇に立つた人物を見て、一瞬自分の目を疑いました。ジージャンにジーンズというカジュアルな服装に、仙人のように長くたくわえた顎鬚……。一年間見慣れていた他の教授とは明らかに雰囲気違っていました。しかし、そのようなユニークな出で立ちに驚いたのも束の間、これまた良い意味で教授



貸し出したままになっていますが、今もきつとどこかで活躍していると思います。それから数ヶ月後のある日、寝ていると携帯が鳴りました。寝ぼけながらも、今田先生だとわかってとちよつとはしやきつと、  
「どうしたんですか」  
「この前より幾分かいい自転車が入ったぞ。池袋にこないか」  
先生は初代の自転車に納得していませんでした。帰りはここをまっすぐ行けば白山通りだからと見送られました。が、このまま帰るのももったいないと思ひ、荒川の河川敷で花見をしようと綱島(旧姓山内)亜紀子さんを呼び出しました。スクーターで上尾からわざわざ来てくれましたね。これもまた素敵な思い出です。自転車はその後友人に

# 酒と肴と人との出会い



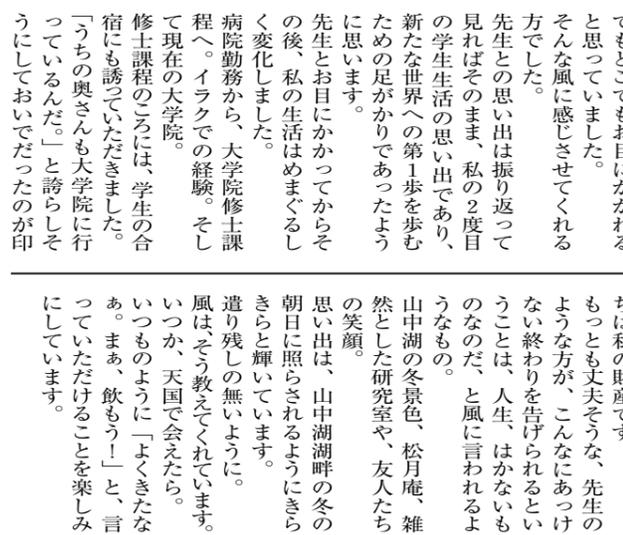
今田教授についてから懸念して頂いたか覚えていない。教授の授業も受けた事はない。唯、大学で私を見つけたら「羽田め、飲みに行くぞ」と誘って下さった。一番印象深い所は「ことじ」だった。マスターとも何度か話しをさせてもらった。初めて行った時、見知らぬ客に手を舐められた事があった。それでも「ことじ」は居やすい空間だった。不思議な空間だった。誰もがそこに居る事を許されてしまう間口の広い空間だった。その空間に一枚の絵が飾ってあった。マスターはその絵を「産みの苦しみ」と言っていた。大きな穴の向こうは白い世界がうごめいている。色々な見方があるだろうが私にはその絵は人生の縮



一度だけ本気で怒られた事がある。書くとき長くなるので省略するが、その時に先生が言った言葉は今でも自分の行動の指針の一つとして意識している。と同時に生徒みんなに優しくした先生に怒られた事は僕の自慢でもある。先生は常に「自由人」に見えて学生時代はそれが単純にいいなあと思えた。しかし、社会に出てみて「自由人」である事がいかに大変な事か少し解ってきた。先生は「自由人」に見える「生き方は、実はものすごく激しい生き方だったのだ」というのが話している。いつか先生とサシで色々話してみたかった。その機会が永久に持たなかった事を今でも僕は腹だたしく思っている。

心の中にあり、とても言いにくいことを口にする機会がありました。すると、悩んでいた私に対し、「ごめんね。気付けてあげられなくて……」と一言。やっと素直になれた心、その友人は私と一緒に考え、そう答えてくれたのでした。その日は決して忘れられません。と同時に、先生に背中を押してもらえた様な気がするのです。素直に自分を語れるということは、こんなにも気持ちが良いものかと実感しました。いつまでも先生の教え子として恥ずかしくない人でありたい。この会でお会った友人を大切にしていきたいと改めて思いました。

初めて今田先生にお会いした日の事を、私は今でも鮮明に思い出す事が出来ます。大学2年となり、大分親しくなってきた語学のクラスの友人達と「新しい中国語の先生ってどんな人かな。」等とワイワイ喋りながら教室で待っていた時でした。私は教壇に立つた人物を見て、一瞬自分の目を疑いました。ジージャンにジーンズというカジュアルな服装に、仙人のように長くたくわえた顎鬚……。一年間見慣れていた他の教授とは明らかに雰囲気違っていました。しかし、そのようなユニークな出で立ちに驚いたのも束の間、これまた良い意味で教授



豪快な声と笑顔とおひげで、学生を元気にさせる方法を知っておられた先生とは、いつでもどこでもお目にかかれると思っていました。そんな風に感じさせてくれる先生との思い出は振り返って見ればそのまま、私の2度目の学生生活の思い出であり、新たな世界への第1歩を歩むための足がかりであったように思います。